

小菅の里の山伏

志田吉隆

Yoshitaka Shida

小菅の里
七星



“修験×ツーリズム” ソーシャルビジネスへの挑戦

都会からやって来た山伏

二〇一六年に飯山市に移住し、地域おこし協力隊員として活動していた志田さん。現在は任期を終え、山伏として小菅集落で七星庵の運営や修験ツーリズムに携わっている。

もともとは生粋の都会人で、移住前は六本木ヒルズにある一番大きなレストランのマネージャーとして働いていた。飯山に訪れるようになったきっかけは友人に誘われて参加した農業体験イベントツアーだった。そこではじめて一次産業にふれ、都会の生活では味わうことのできない農業体験や住民との交流によって、楽しさと達成感から飯山の虜になった。それから年に八回程度飯山を訪れるようになり、その中で出羽三山の山伏とも出会い、自身も修験の道に進むという人生の転機を迎えた。

そして二〇一六年、志田さんは前職を辞め「小菅集落に修験道を復活させたい」という熱意を胸に、飯山で新たな生活をはじめると決意。「山伏としても、この地域の住民としても四年生。本当に今、集落の方に助けてもらいながらいろいろと学ばせてもらっています。」と語る志田さん。現在の住居や地域おこし協力隊員への就任も、地域の方から声をかけてもらったことがきっかけである。

多くの方々に支えられて今があると実感している志田さんは、恩返しの意味も込めて、飯山のPR活動や修験ツーリズムに尽力している。

都会と飯山の架け橋に

志田さんは、地域おこし協力隊員の頃から飯山で新たな事業に取り組んできた。「イベントではただ食べるだけではなくて、ひとひねりすることで話題性を持たせたくて。」そう語る志田さんが企画したイベントは魅力的なものが多い。

たとえば、なべくら高原・森の家でのアウトドア・ダイニングでは、とことん地産地消にこだわりの、東京の有名なフレンチシェフによる、地元食材を使ったコース料理がふるまわれた。都会に行かなければ味わうことのできない味が飯山で味わえる、観光客にとっても地元の方にとっても魅力的なイベントだった。また、農家の方にとっては、自分たちが作った食材が一流シェフの手でフレンチ料理になり、多くの人に食べてもらえる機会になった。

志田さんは、ただ食べるだけのイベントでは終わらせず、そこに生産者と消費者の交流の場としての機能も持たせた。「都会の当たり前前を飯山に持ってくることで、都会と田舎をつないでビジネスチャンスを作っていききたい。」と語る志田さん。

「一流のフレンチシェフ×飯山の食材」のように、都会と飯山の良いところを組み合わせた魅力的なイベントの企画は、両方を熟知する志田さんからこそ出来る発想だ、と言えるだろう。

修験ツーリズムへの挑戦

二〇一八年、志田さんは修験ツーリズムの拠点として、築二〇〇年の古民家をリノベーションした一棟貸しの宿泊施設である七星庵をオープンさせた。中に入ると、立派な柱や囲炉裏、そして吹き抜けの天井が目に入り、心地よく開放的な空間や、古き良き古民家の雰囲気は圧倒される。現在の七星庵は、主に大学のゼミナールの合宿場や観光客向けの古民家体験施設として利用されている。

小菅集落には昔、北信州の三大霊場の一つに数えられ、三十三軒の僧坊が存在したという歴史が



ある。「修験の途絶えてしまった地域にまた修験

を復活させたい。」と語る志田さんは、七星庵の

オープンを皮切りに、宿坊の復活と修験の「ツーリズム化」に取りかかった。志田さんは、修験を

小菅集落の体験型観光とすべく、定期的に山伏と

して学生や外国人向けに小菅神社のガイドツアー

をしながら、年に1回、一泊二日で山伏修行も

開催している。

この修行は山形から先達を招き、祈祷やお礼授与をする正規の山伏修行である。毎年定員二十四

名の枠がアナウンスから一週間で埋まるほどの

盛況ぶりだが、観光客を呼ぶためのプログラムづく

りや予算集めには苦労したという。「もともと

観光地化していない地域だからPRするのがす

ごく大変で。でも、山ほどある施設や地域の中か

ら七星庵に行きたい、小菅集落に行きたいと思っ



てもらったためのきっかけをつくりたくて。」と語

る志田さん。古民家体験や自然体験ができる場所

は全国にたくさんあるが、どうすれば小菅集落に

興味を持ち、来たいと思ってもらうことができる

のか。そこで志田さんが着目したのが、この地に

古くから根付く「修験の文化」と「観光」の融合

だった。そして、この地で修験の道に進むと決め

た志田さん自身の人生と重ねて考察したのが、気

軽にそして本格的な山伏修行ができる「修験ツー

リズム」なのだ。

修験ツーリズムを

小菅集落から全国へ

いずれは山伏の先達になることも考えている

志田さん。先達になることで、小菅集落に限らず、

日本全国で修験ツーリズムを展開していく時が

くるかもしれない。「修験は仏教的な要素が大き

いですが、元々は自然への畏怖・感謝から生まれ

たものです。そのため、僕は修験を“自然と人間

をつなぐもの”だと理解しています。最終的には

僕自身が人と自然の接点になり続けていきたい

です。」と語る志田さん。

神仏習合という日本の宗教の典型である修験

道の中心的な思想は、自然に対する畏敬の念や恐

れ敬う感情から生まれた山岳信仰である。近年、

都会では自然体験のニーズは高まりつつあるが、

多くの人は森林で多少なりとも時間を過ごせば

満足する。もちろんそれでもよいが、その先に、

修験ツーリズムを通じて自然への畏怖や感謝、そ

して自然と人の共生について、さらに深く体感す

る機会を提供したいと志田さんは考えている。

「そのためにも、もっとみんなに体験してもら

いやすい環境を作っていきたいですよね。」と語

る、都会から移住した山伏による、修験の里を再

生させるソーシャル・ビジネスへの挑戦は、小菅

集落から全国、そして世界へと発信されていくだ

ろう。

